◆2021 年 2 月第 3 週の奨励

■日　時：2021 年 2 月 21 日（日）

■場　所：立川教会

■奨励者：朝海和久 兄

■奨励題：「絶えず祈るためには」

■聖　書：新約 テサロニケの信徒への手紙一 5：16－18（新 p379）

■讃美歌：475「あめなるよろこび」430・「とびらの外に」

おはようございます。毎年 2 月も中旬になると花粉が飛び始めます。特に昨日あたりから明日まで最高気温が 20℃を超える日が続くそうで花粉が多く飛びます。今年は例年と比較してやや少ないらしいのですが、昨年が極端に少なかったので昨年と比べると非常に多くなるそうです。私も花粉症とは 50 年の付き合いになります。薬を飲み、目薬をさしてしっかり対策して 5 月の初旬までの 3 か月間を過ごしていきたいと思います。皆さんも健康管理には充分気を付けていただきたいと思います。

最近のインターネットは本当に使いやすく「日本聖書協会ホームページ」を見ると聖書本文検索が出来ます。例えば検索キーワードとして「右の頬」を入力して検索すると、マタイによる福音書 05 章 39 節　「しかし、わたしは言っておく。悪人に手向かってはならない。だれかがあなたの右の頬を打つなら、左の頬をも向けなさい。」がヒットします。今回のテーマである「祈り」をキーワードとして検索するとさすがにたくさんヒットします。創世記から始まって出エジプト記、申命記と続き 51 件の書名がヒットしました。また、創世記だけでも 20 章 07 節、24 章 15 節、25 章 21 節と 3 件ヒットするそうです。

それらの中で先ほど司式者に読んで頂いたテサロニケの信徒への手紙一 5 章 17 節「絶えず祈りなさい」がありました。何となく導かれるままに聖書を開いてみると付箋が貼ってあります。福音書なら兎も角、何故付箋が貼ってあるのかしばらく分かりませんでした。20 秒程固まっていましたがようやく思い出しました。この聖句はこの教会の前の会計担当だった A さんが好きだった聖句でした。肝臓がんだったと記憶していますが、２０１２年８月に召天されました。82 歳でした。その前の年２０１１年の秋に当時長期お休み中だった私のところに A さんから「今度 B 牧師が辞任することになったから戻ってきてほしい」と電話がありました。正直言って B 牧師の辞任と私の教会復帰がどうして結びつくのか分かりませんでしたが、A さんの本心は私を会計の後継者としたかったようです。復帰間もない３月の定期教会総会で役員に選ばれ、A さんと二人三脚で会計を担当する２０１２年

度が始まりました。長期休暇の前も役員は経験していましたが会計は未経験でした。A さんから会計の事を教えてもらいながら会計補佐を務めていましたが、６月頃から A さんが体調を崩され入院されてしまいました。独り立ちを余儀なくされました。そのまま８月の召天を迎えました。その後も会計担当として大変な一年を過ごしましたがそのような思い出の詰まった聖句です。

さて「いつも喜んでいなさい」と始まります。この聖句は文字通り実践することは比較的容易ではないかと思います。確かに悲しい事があると喜ぶ気分になれない時もあるかと思いますがその悲しみを癒してくれる存在が必ず現れるものです。それに「たとえ作り笑いでも、続けていけば本物になる」ものです。そのためこの聖句はそのまま読んでいきます。

問題は次の聖句です。「絶えず祈りなさい」と続きます。以前の私だったら「無理無理無理無理無理無理無理・・」と 10 回ぐらい叫んだことでしょう。

普段の生活を「祈る時」と「祈らない時」「祈れない時」の３つに大きく分けて考えます。

「祈る時」は別にその通りなので問題ありませんね。

「祈らない時」も寝ている時や仕事で考え事をしている時など生活していく上で祈り以外の事に集中しなくてはならないことは多くあると思うので仕方ないと言えるのではないでしょうか?

でも心掛け次第では「祈らない時」を減らしていけるとも思います。この心掛けが多分「信仰」という言葉に置き換わるのではないでしょうか。まだ私は寝ながら夢の中で祈り続けるほどには達していないので何とも言えませんが、最近では仕事中考え事をしている時でも祈っています。

皆さんが良く知っているマザー・テレサの言葉を借りると「私はいつも沈黙の中で祈り始めます。祈りは誰にでも今すぐできること。仕事の最中でも祈ることは出来ます。仕事は祈りを妨げませんし、祈りも仕事を妨げません。ただほんの少しだけ心を神に向けるだけでよいのです。愛しています。お任せしています。信じています。神よ、私は今、あなたが必要です。こんな感じでいいのです。これは素晴らしい祈りです。」とあります。

また最近、祈りに関して興味深い言葉に出会いました。生命科学や遺伝子を切り口に『人は何のために祈るのか』を書いた研究者の言葉を引用していますがその一部分を紹介します。

「真摯な祈りは宗教を超えている。アーメンでなければいけないわけでも南無阿弥陀仏でなければいけないわけでもない。人間にとって祈りとは、潜在的可能性を目覚めさせる行為なのだ。人間が生きていくのに必要な生命の根源すなわち生命エネルギーの源とつながるために人は祈る。祈りはブレない生き方を実現させる。そのような祈りをするためには直感が関係する。」その言葉を受けて筆者は続けます。「イスラム教徒であれ、仏教徒であれ、キリスト教徒であれ、無宗教を標榜している人であれ、人は生命エネルギーの源とつながるために祈る」と言っています。この「生命エネルギーの源」という言葉を私達の中では「神様」と言い換えることができます。神様とつながるためのものが祈りであると。神様は私たちの「生命エネルギーの源」であり、そことつながる祈りは、人間としてブレない生き方を可能にしてくれるのです。

だそうです。話を元に戻しましょう。

祈りの形にとらわれ過ぎず息をするように自然に祈る。とらわれ過ぎないのであってとらわれないわけではありません、最低限守らねばならないルールは有ります。呼びかけで始まり、主イエス・キリストの御名によって祈りアーメンで終わる。そして祈りの中には神様が忌み嫌われる祈りも有ります。それは神に「要求」と「注文」だけは突きつける祈りです。神の御言葉に耳を背け、神を神とせず、機械か道具扱いにしているわがまま勝手な祈りや忍耐のない祈りです。「神を試してはならない」というのも含まれるのではないでしょうか。

祈りに関してはまだまだ私は初心者です。ルールを守りつつ「祈りの形にとらわれ過ぎず息をするように自然に祈る」ことを第一に兎に角祈る癖をつけることが肝心なのかなと思います。そうすることで聖霊との波長が合いやすくなると私は信じています。祈りの言葉はやがて聖霊から与えられるようになります。余計に心配は不要です。兎に角祈る、聖霊との波長が合ってくる、祈りの言葉が聖霊から与えられる、祈りがこういった好循環に入ればしめたものです。

マタイによる福音書6章6節、新約聖書9ページにはこうあります。「あなたは祈る時、自分の部屋にはいり、戸を閉じて、隠れた所においでになるあなたの父に祈りなさい」。でも特別な祈祷室でなければ祈ってはいけないのでしょうか?

なんかファリサイ派との問答みたいになってしまいますが、私は違うと思います。「自分の部屋にはいり、戸を閉じて」とは自分だけの時間と空間なのだろうと認識しています。それは前の5節「また祈る時には、偽善者たちのようにするな。彼らは人に見せようとして、会堂や大通りのつじに立って祈ることを好む。」との対比で理解できると思います。「祈りの形にとらわれ過ぎず息をするように自然に祈る」、一日も早く私もそうなりたいと思います。

「祈れない時」はどうすれば良いでしょうか。激しい怒りが込み上げてきたり、逆に深い悲しみで何も手につかないことが、感情をコントロールできないことが、若いころにはよく、年を重ねるたびに遭遇する頻度は減少傾向になるようですが有ります。

そんな時は一人で解決しようとはせずに「苦しい時の神頼み」をすれば良いのです。素直に「神様祈れません」と祈れば良いのです。皮肉なものでそんな時は聖霊の導きを感じやすい絶好の状態だと言えるからです。魂が最も砕かれた状態、神様を最大限頼っている状態なので聖霊との波長が合いやすい状態、シンクロしやすい状態であると言えます。

昨日の土曜日は「おちょやん」の一週間のダイジェスト版を放送しました。題は「親は子の幸せを願うもんやろ？」でした。その中で「親は子に心配を掛けさせてほしいものだ」といったセリフがありました。かなり飛躍しすぎているとは思いますが、少なくともこの世の親は子から投げかけられた相談を無下にするようなことはしません。天の父であれば尚更でしょう。「祈れない時」こそ「祈れません」と祈る、そんな神様への信頼をもちたいものです。

私達には憲法上信教の自由が与えられています。様々な宗教がある中でキリスト教を選んだ理由は人それぞれですが、キリスト教を選んだ私達はその道を進むうえで様々な努力を求められます。選んだ理由と続ける努力を天秤にかけて信仰しない道を選び直す人も多くいます。私的にはなるべく負担のかからない方法で信仰を生活の一部に取り入れていきたいと思っています。その手段が「祈りの形にとらわれ過ぎず息をするように自然に祈る」です。

「おんがく」という字を思い浮かべてください。音を楽しむと思う方が殆どだと思います。しかし音楽を極めようと思う人は、楽しむ前段階で学んで苦しむ時期を乗り越えていると言います。つまり音を学ぶ「音学」、音が苦しい「音が苦」、そして楽しくなる「音楽」の 3 段階です。私達の信仰も苦しい時期を如何に乗り越えるかがポイントになると思います。

よくラジオを聴きながら勉強することを「ながら勉強」と言います。勉強がメインだからです。今の私は祈りながら仕事をしているいわゆる「ながら仕事」の状態です。将来的には仕事をしながら絶えず祈る「ながら祈り」になれるといいなと思っています。 祈ります。